

ムモンアカシジミ *Shirozua jonasi* (Janson)

【選定理由】

愛知県では、1998年に東加茂郡旭町（現豊田市）で初めて記録された。その後確認の報告はなかったが、2006年7月に北岡明彦氏により再確認された。発生地が局所的で、個体数は他県に比べ僅少である。また、限定されたアリとの共生やコナラなどの新芽とアブラムシ類やカイガラムシ類を食べて成長するなど、特異な生活史を有しているため環境変化の影響を受けやすい。他県から隔離された発生地であることもあり、2018年以降急速に個体数が減少している。

【形態】

豊田市産は、前翅長 22mm 前後で他産地よりも平均的にやや大きい。翅表は橙色、裏面は黄橙色で中室端と中央部に淡褐色条がある。♂の前翅頂表に目立つ斑紋はないが、♀には通常外縁に沿って黒斑があり、時に不明瞭となる。当該産地の個体は不明瞭なものが多い。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊田市（旧旭町）、豊根村（旧豊根村）での生息を確認した。各産地とも個体数は少ない。

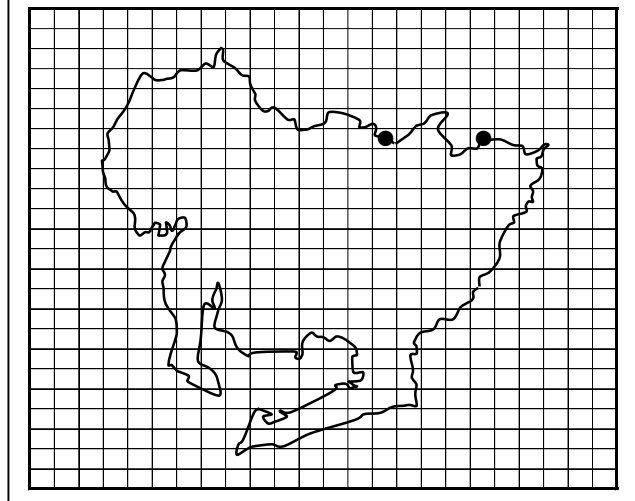
【国内の分布】

北海道、本州に分布する。四国、九州には分布しない。関東北部から中部地方の山地帯にかけて産地が多いが、その発生地はきわめて局地的である。

【世界の分布】

朝鮮半島、ロシア南東部、中国東北部に分布する。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

北海道では平地～山地、本州では低山地～産地の落葉広葉樹林に生息する。愛知県での生息地は中～高標高地の落葉広葉樹林である。本種は共生関係にあるアリ（クサアリ亜属）の営巣が発生の必須条件。その上、コナラなどの植物に寄生するアブラムシ類の発生などにも左右される。また、蛹とアリは乾燥の影響を受け、発生樹周辺が草刈りなどにより露出・乾燥すると生き残るのが厳しくなる。卵で越冬するが、樹幹の亀裂部や褶曲部に 1 個ずつ産み付けられるため、野外における卵の発見は容易ではない。年 1 回の発生で、ミドリシジミ類としては遅く 7 月中旬から 8 月に出現する。本種と共生するアリ（クサアリモドキ・クロクサアリ・フジボソクサアリなどが知られている）との関係、産卵植物（コナラ・アベマキ・クリあるいはブナ科以外の植物）の究明が待たれる。

【現在の生息状況／減少の要因】

豊田市の生息地は、牧草地に続く落葉樹の二次林である。同地はキャンプ場の敷地整備の一環として定期的な草刈りや樹木の伐採・剪定がなされる。そうした僅かな変化にも敏感に反応し、発生樹を替えたりしている。この変化は同時にアリの営巣があるところに限られ、また継続的に発生できるコナラなどの好条件の樹は限られ、成虫の行き着く先もおおのずから限定的で生息環境は厳しい状態で推移している。生息地域が局所的で分断されていることに加え、数本の食樹に依存し細々と発生を繰り返す場合が多く、発生木の伐採、剪定などが個体群の減少をまねくことがある。

【保全上の留意点】

発生樹周辺での過度な草刈りをしない。最小限の樹木の剪定、伐採に留意するとともに、アリの発生環境にも配慮するなど諸条件の同時並行的保全が求められる。

【関連文献】

陸 雄一ほか, 2000. 愛知県でムモンアカシジミを採集. 佳香蝶, 47 (201): 24.

(2009年版を一部修正)